

総務企画常任委員会 意見交換会報告

去る11月2日開催の白山市防災士会との意見交換会について、その概要を報告します。

当日は白山市防災士会の北出会長を初め、役員の方8名にご出席いただき、「防災士と地域防災力の向上」をテーマに意見交換を行いました。

白山市防災士会は、地域防災力向上の啓発等を主な目的として、平成26年5月に結成された新しい団体です。

活動内容は、各地区、町内会単位の防災訓練の補助や、自主的なスキルアップ研修等を実施しており、本年度より新たな活動として、各地区の防災士と連携し、防災訓練等の企画、立案、指導の支援にも取り組まれ、現在139名の会員が登録されております。

それでは、今回の意見交換会で出された主な意見を述べさせていただきます。

初めに、市民の防災意識の向上についてであります。

今年、日本各地で自然災害が発生し、市民の災害に対する意識が高くなったように感じられますが、市内で防災訓練を実施している地区・町内会は、限られており、まだまだ市民全体としての防災への意識には濃淡があるのではとの意見や、地区住民との避難訓練の実施案づくりでは、とりあえず自分と家族が避難すればいい、近所の消火や救助は消防の方がしてくれる、避難所はすぐに開設され、市役所の職員が安否確認や世話をしてくれると漠然と思いついていて多いことを知ったとの意見もありました。

白山市においても、いつ大災害が発生してもおかしくなく、自助、共助の必要性を知ってもらうことは、とても大切であり、防災士会としては、市民への防災に対する意識の向上のため、どのように啓発活動をすればよいかとの意見がありました。

次に、防災士会の認知度の向上についてであります。

防災士の資格を取って普及活動をさせてもらっているが、話を聞いてもらえないことがある。防災士についてまだまだ理解されていないとの意見がありました。

また、防災士、防災士会の認知度が向上すれば活動できる場も広がるのではないか。そのために防災訓練実施時に白山市防災士会と明記をしたジャケットを着ているとの意見や、防災訓練等の手伝いや協力ができるところを啓発する機会があったら紹介してほしいなどの意見もありました。

次に、防災士の数と質の向上についてであります。

白山市には、現在372人が防災士に登録されております。

地区の防災力は、防災士が複数いる地区と、防災士が1人もいない地区では、格差のある状況となっており、この格差が各地区、各町内会の防災意識の差につながる一つの要因と感じているとのことでした。防災士のいる町内会は現時点で386町内会のうち、230町内会にとどまっております。全町内会に最低1人

の防災士が登録されればよいのではとの意見がありました。また、防災に関する知識及び技術を説明啓発するためには、人前で防災に関する講話などができる防災士の育成にも努めていく必要があるのではとの意見もありました。

委員からは、白山市防災士会に対して、地元の文化祭等で、地元の防災士と連携して企画、展示、講習など、地区民にアピールする機会を持つことが、一番効果があるのではないかと提案や、執行部に対して、市内での防災講演会、防災訓練などの開催情報や、災害時の協力井戸の位置情報などを白山市防災士会と共有し、防災士会の活動を支援していただくよう提案がありました。

白山市防災士会は、結成されて間もない組織であり、これからの団体だと感じました。

これからも防災意識の向上のため、大きな役割を担っていただけることを確認できた有意義な意見交換会でありました。